

平成29年度 友好都市交流事業報告

平成28年6月に鹿児島県南種子町と友好自治体提携を結び、昨年度より飛島学園6年生10名を同町に派遣しています。12月23日(土)～25日(月)の三日間、現地の児童たちとの交流や様々な場所での研修など、貴重な体験を通して交流団一人ひとりが研修テーマにそって、学びを深めることができました。

自然と歴史溢れる南種子町



潮の満ち引きによって自然にできた洞窟「千座(ちくら)の岩屋」。洞窟の中は千人が入ることができるほど大きいと言われています。

南種子町はマングローブが自生する北限地。目の前一面に広がるガジュマルの木々に圧倒されました。



昔から神様に奉納する赤米の歴史を学ぶため、たねがしま赤米館を訪れました。機械を使わず全て手作りされていることや、農業の歴史を学ぶことができました。



ポルトガル船が漂着し、それがきっかけで日本に火縄銃が伝わった門倉岬を訪れました。崖に打ち寄せる波の激しさを見て、自然の雄大さと厳しさを感じました。

南種子町郷土館では、昔の人たちの生活の知恵から生まれた道具や、一本の木をくりぬいて作った漁師用の船を見ながら地元の暮らしについて学びました。



**発見いっぱい！
学びがいっぱい！**



体験して学ぶ！



食べて学ぶ！

人との交流、そして未来へ

交流団の目的の一つは、飛島村と南種子町の架け橋になること。様々な交流活動を通じて、絆を深めることができました。これをきっかけに、二つの自治体の交流がより一層活発なものになることを願っています。



交流して学ぶ！



見て学ぶ！



私たちが三つの自治体の、



架け橋になります！

広田遺跡ミュージアムでの活動で、私は南種子町の子とペアになって、ヤシの実を選んでお話を作りました。ミュージアムでは、南種子町のいろいろな歴史を知ることができて楽しかったです。ここでも、南種子町にあって飛島村にないものを見つけることができました。(松岡 優空)

南種子町の子たちは、みんな明るくなんでも教えてくれてとてもいい体験になりました。そして、大人の人もあいさつをしてくれて、人情がいいと思いました。僕は、人のよさが印象に残りました。(岡部 煌太)